

浮島を使って水質浄化

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、四万十川中流域の窪川町でナスを養液栽培している田井さんご夫婦が独自に取り組んでいる浮島を使った水質浄化について紹介します。

田井さんご夫婦は、平成10年から環境にやさしい農業を目指してロックウール栽培を始めました。「減農薬、蜂、天敵など積極的に取り入れましたが、廃液の処理の問題が残りました。養分を含んだ廃液をそのまま川に流すことに抵抗を感じ、何とか農家らしい処理をしたいと思い、県の環境保全型畑作振興センターからアドバイスを受け、ハウスの隣へ浮島を使った浄化池を造ることにしました。浮島は、植物をのせた『イカダ』です。（この植物によって廃液を浄化します）まず、池造りから始め、独自でアレンジした浮島を造りました。最初は効果が得られず苦勞もしましたが、植物の数を増やしたり、池を広げることで、効果が出ました」と、夫の田井和広さんは熱く語ってくれました。

浄化池では、ミスユキノシタ、パピルス、オオフサモなどが青々と育ち、メダカやカエルなどが泳いでいます。この時期、植物はどんどん生長しますが、茂りすぎた植物は、浮島から取り除き、黒いシートをかけて、たい肥化します。

田井さんのハウスでは、清らかな水でナスを栽培し、栽培後は廃液となりますが、浮島での浄化によりきれいな水になって、四万十川に戻っていきます。

今年度からは、廃液を浄化するだけでなく、浄化した後の植物を使って環境学習にも取り組んでいます。地元の小学校で、浄化池のパピルスを使って子供たちと紙を漉く予定です。

●お問い合わせ 高知県文化推進課四万十川流域振興室 TEL088-823-9795



▲浮島ハウス内



▲根っこも大きく成長。

Topics

英語で四万十川中流域を紹介

大正町と十和村の中学校・高等学校の計6校の生徒たちが、英語で両町村の伝統文化や観光スポットなどを紹介するリーフレット（A4判、6ページ）を2,000部作製しました。

両町村は平成13年より中高一貫教育に取り組んでおり、大正町の1高校・3中学校、十和村の2中学校が各校1ページずつ担当し、文章だけでなく、写真撮影やイラストまで生徒達が行いました。両町村の観光施設などに置かれ、国際交流にも一役買っています。